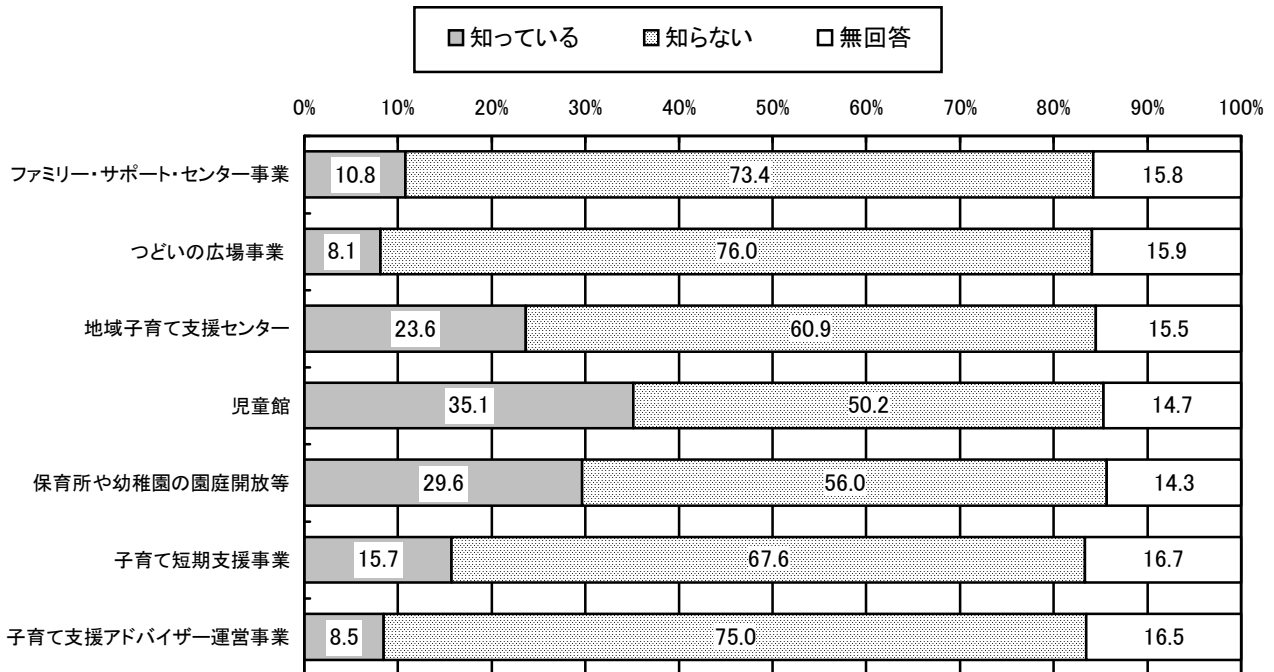


7. 子育て支援策の現状について

7-1 子育て支援事業の認知度

問18 奈良市の子育て支援事業についてお尋ねします。全ての項目について、あなたが、①ご存知の事業、をお選びください。

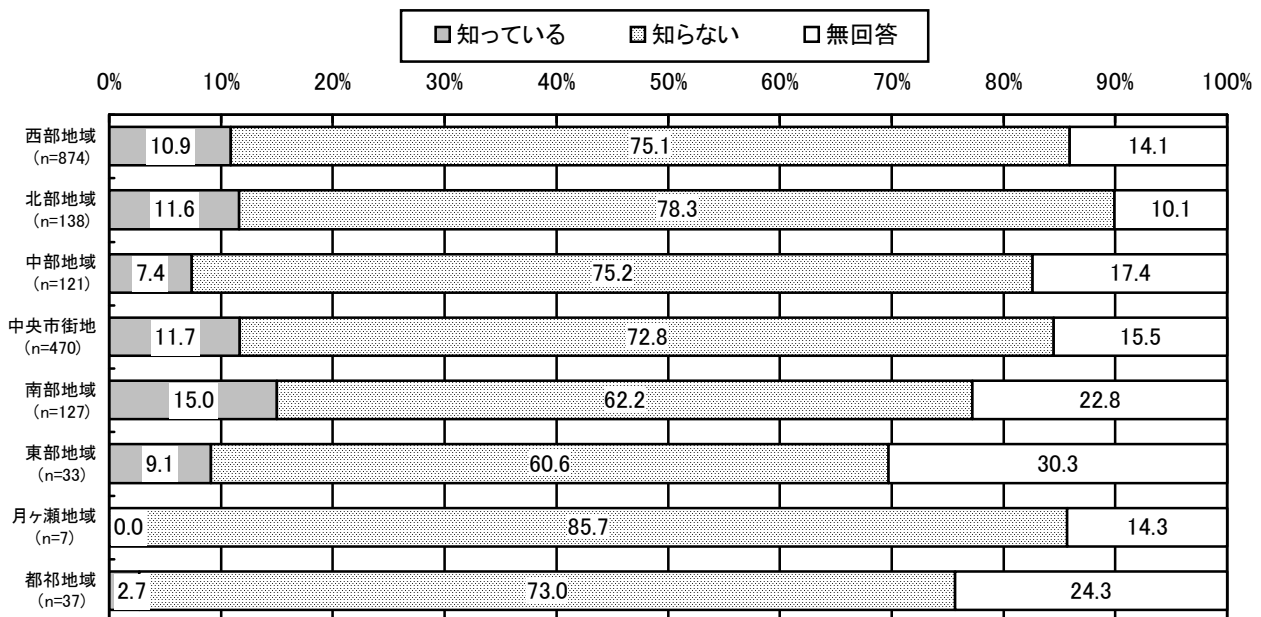
図 7-1 (子育て支援事業の認知度) 【n=1,863】



奈良市の子育て支援事業の中で、最も認知度が高い事業は「児童館」で35.1%であり、次いで「保育所や幼稚園の園庭開放等（29.6%）」「地域子育て支援センター（23.6%）」の順となっている。また、最も認知度が低い事業は「つどいの広場事業（8.1%）」となっている。（図 7-1）

●地域別認知度

図 7-1-1 (地域別 ファミリー・サポート・センター事業の認知度)



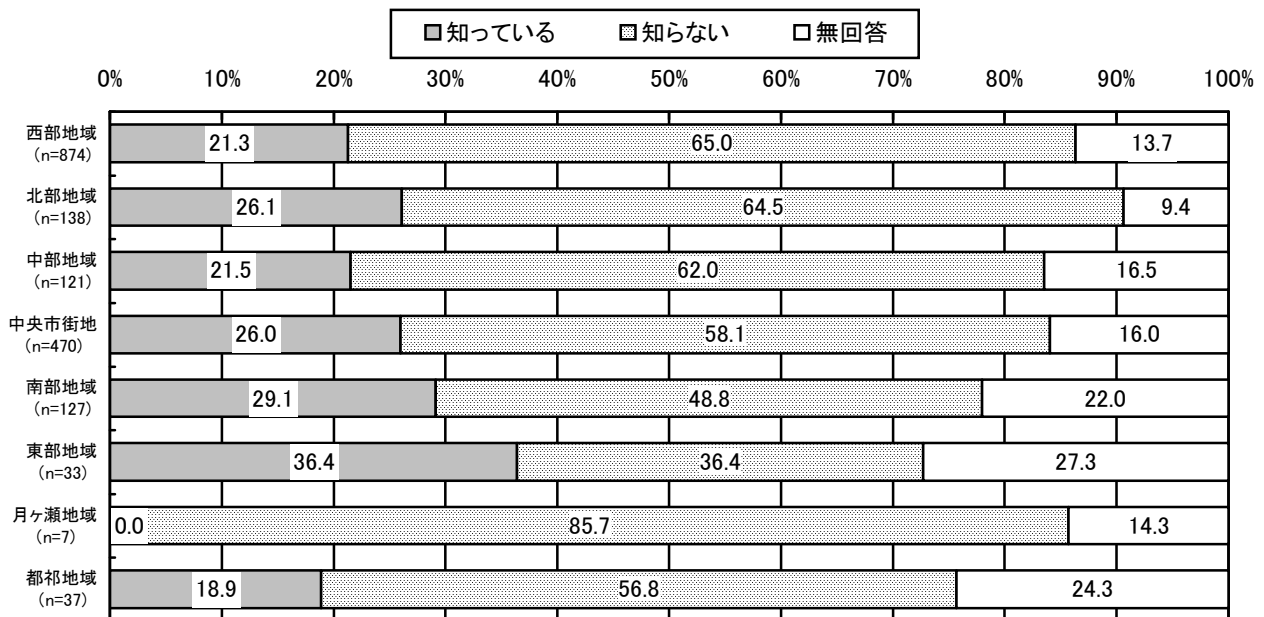
また、各事業を地域別にみると、「ファミリー・サポート・センター事業」では、南部地域が15.0%と最も高い認知率であり、次いで中央市街地（11.7%）、北部地域（11.6%）の順となっている。（図 7-1-1）

図 7-1-2 (地域別 つどいの広場事業の認知度)



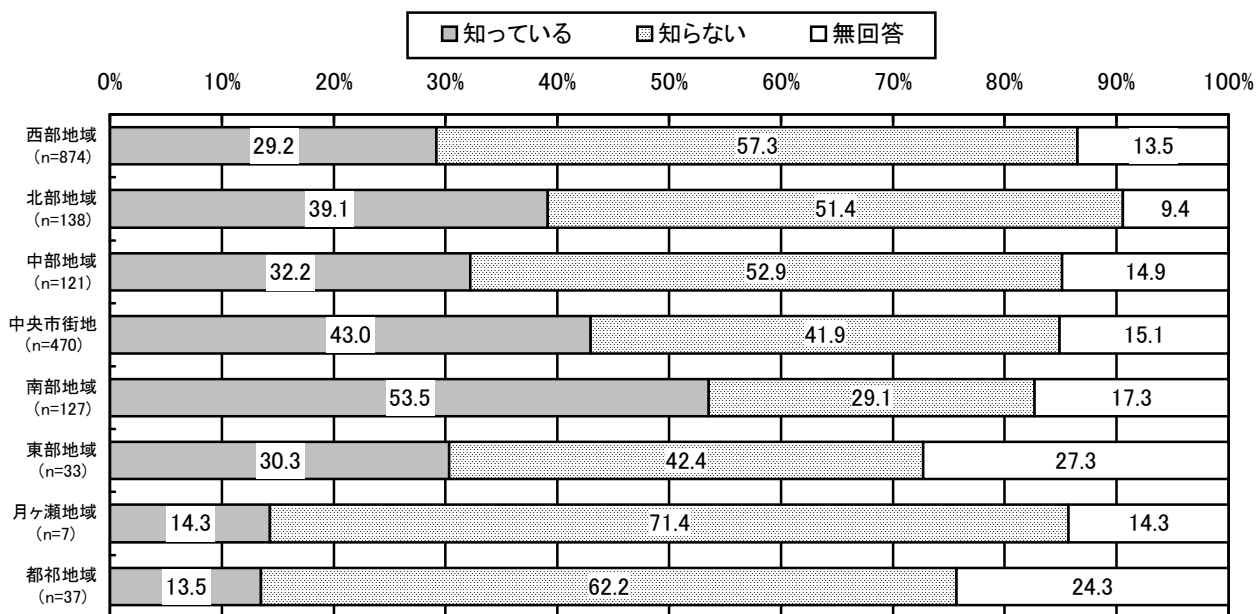
「つどいの広場事業」では、南部地域が 13.4%と最も高くなっており、次いで北部地域(13.0%)、中央市街地 (7.9%) の順となっている。(図 7-1-2)

図 7-1-3 (地域別 地域子育て支援センターの認知度)



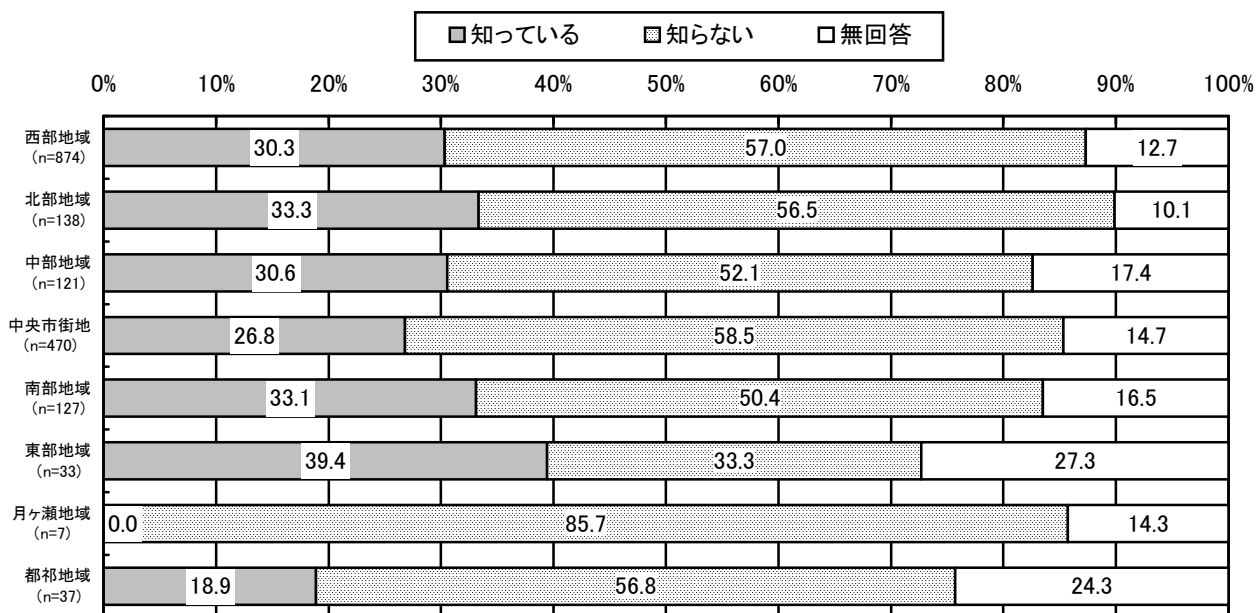
「地域子育て支援センター」では、東部地域が 36.4%と最も高くなっており、次いで南部地域 (29.1%)、北部地域 (26.1%) の順となっている。(図 7-1-3)

図 7-1-4 (地域別 児童館の認知度)



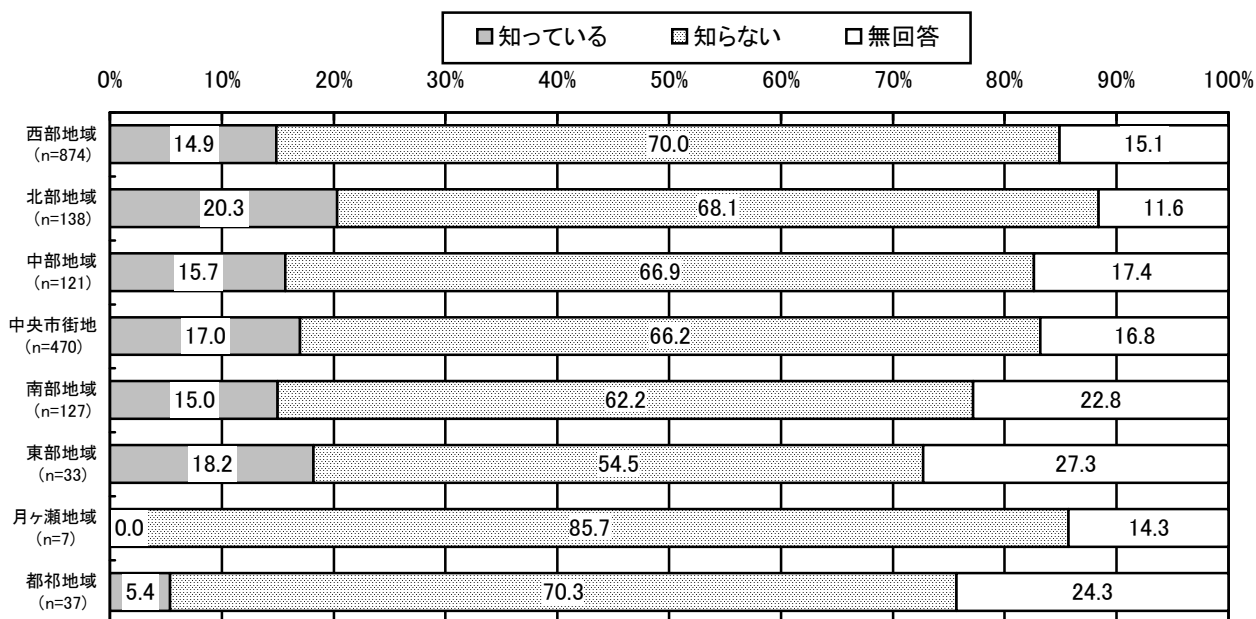
「児童館」では、南部地域が 53.5%と最も高くなっており、次いで中央市街地 (43.0%)、北部地域 (39.1%) の順となっている。(図 7-1-4)

図 7-1-5 (地域別 保育所や幼稚園の園庭開放等の認知度)



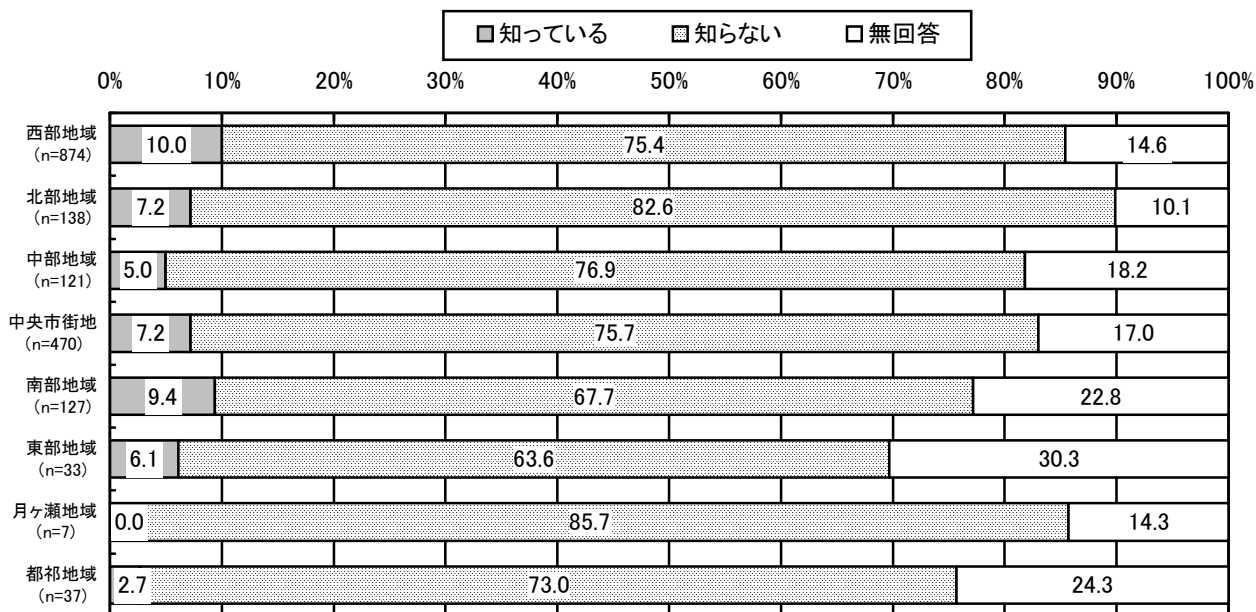
「保育所や幼稚園の園庭開放等」では、東部地域が 39.4%と最も高くなっており、次いで北部地域 (33.3%)、南部地域 (33.1%) の順となっている。(図 7-1-5)

図 7-1-6 (地域別 子育て短期支援事業の認知度)



「子育て短期支援事業」では、北部地域が 20.3%と最も高くなっており、次いで東部地域(18.2%)、中央市街地 (17.0%) の順となっている。(図 7-1-6)

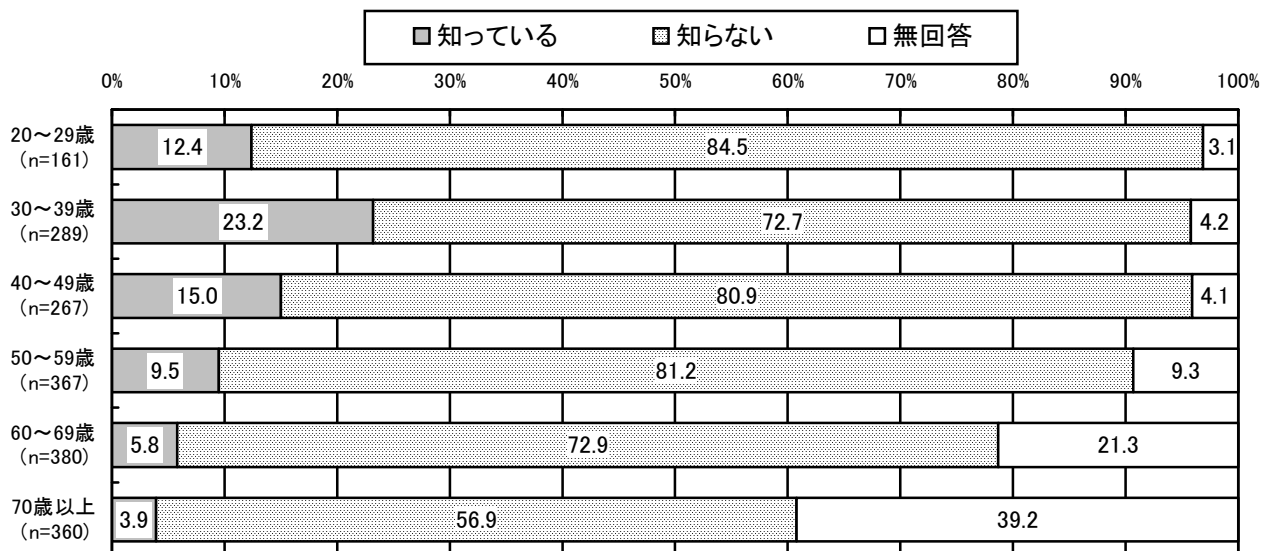
図 7-1-7 (地域別 子育て支援アドバイザー運営事業の認知度)



「子育て支援アドバイザー運営事業」では、西部地域が 10.0%と最も高くなっており、次いで南部地域 (9.4%)、北部地域、中央市街地 (7.2%) の順となっている。(図 7-1-7)

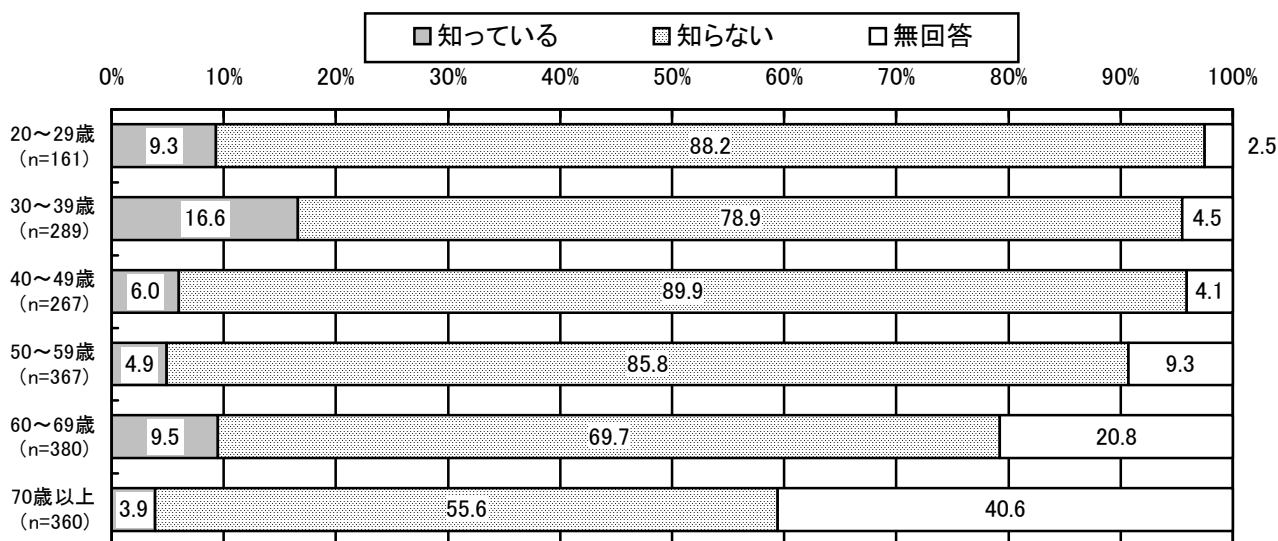
●年齢別認知度

図 7-1-8 (年齢別 ファミリー・サポート・センター事業の認知度)



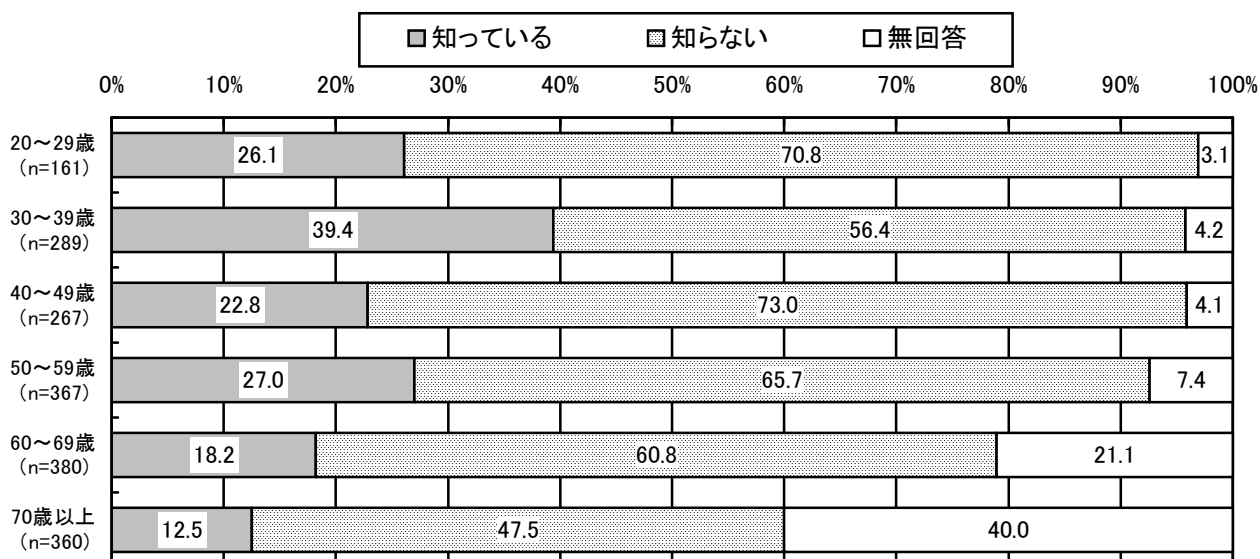
各事業を年齢別にみると、「ファミリー・サポート・センター事業」では、30～39歳が23.2%と最も高い認知率であり、次いで40～49歳（15.0%）、20～29歳（12.4%）の順となっている。（図7-1-8）

図 7-1-9 (年齢別 つどいの広場事業の認知度)



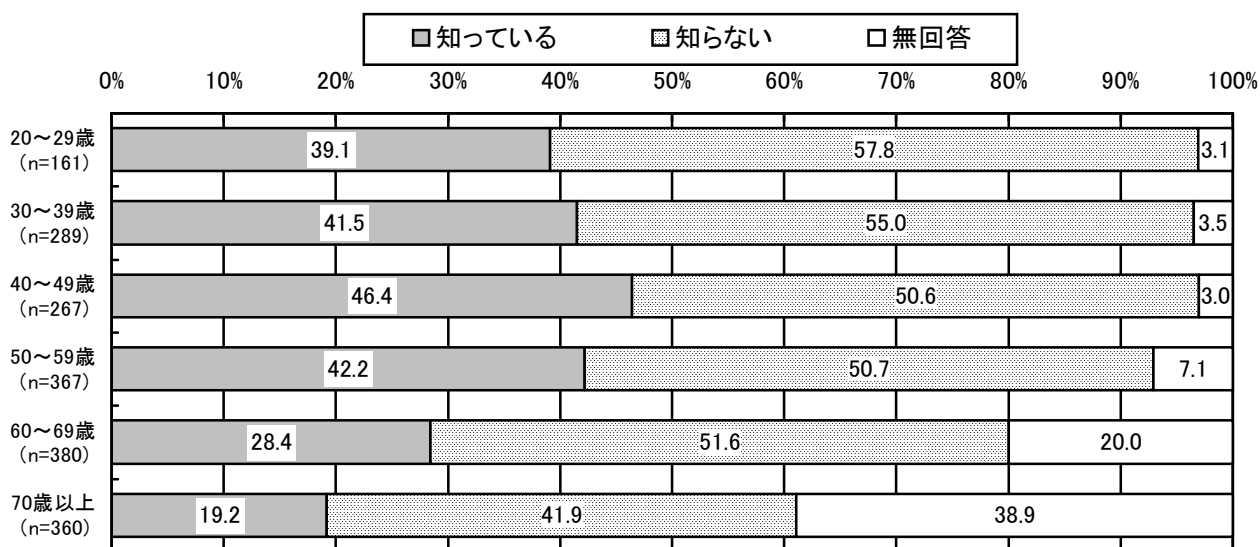
「つどいの広場事業」では、30～39歳が16.6%と最も高くなっており、次いで60～69歳（9.5%）、20～29歳（9.3%）の順となっている。
また、他の事業では低い60～69歳の認知度が2位と高くなっている。（図7-1-9）

図 7-1-10 (年齢別 地域子育て支援センターの認知度)



「地域子育て支援センター」では、30～39歳が39.4%と最も高くなっており、次いで50～59歳(27.0%)、20～29歳(26.1%)の順となっている。(図7-1-10)

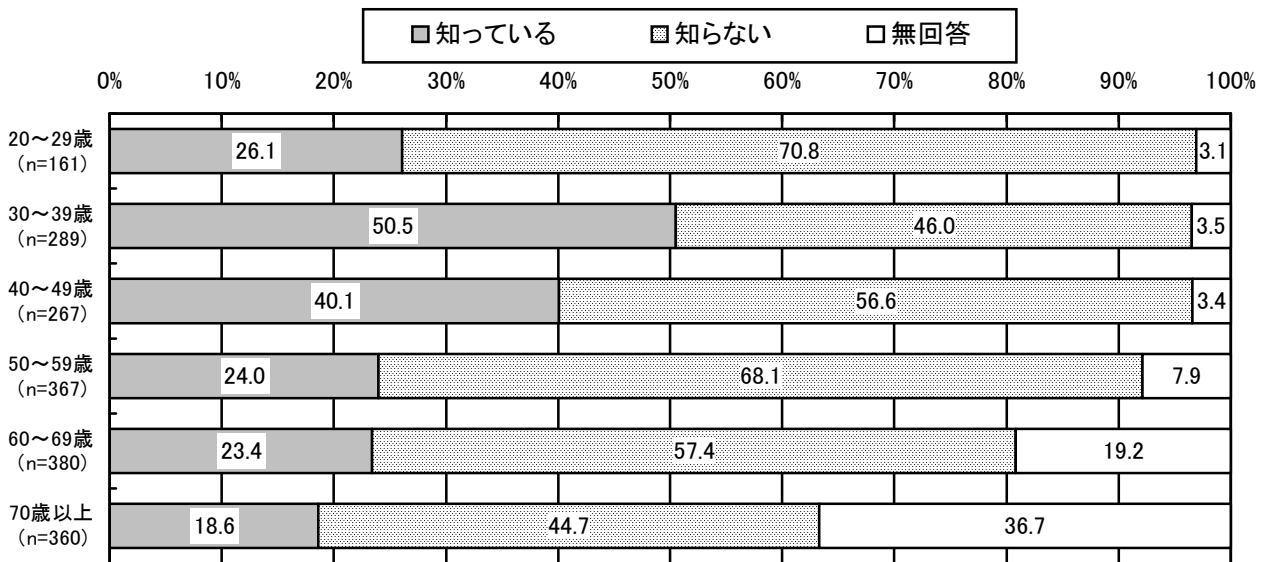
図 7-1-11 (年齢別 児童館の認知度)



「児童館」では、40～49歳が46.4%と最も高くなっており、次いで50～59歳(42.2%)、30～39歳(41.5%)の順となっている。

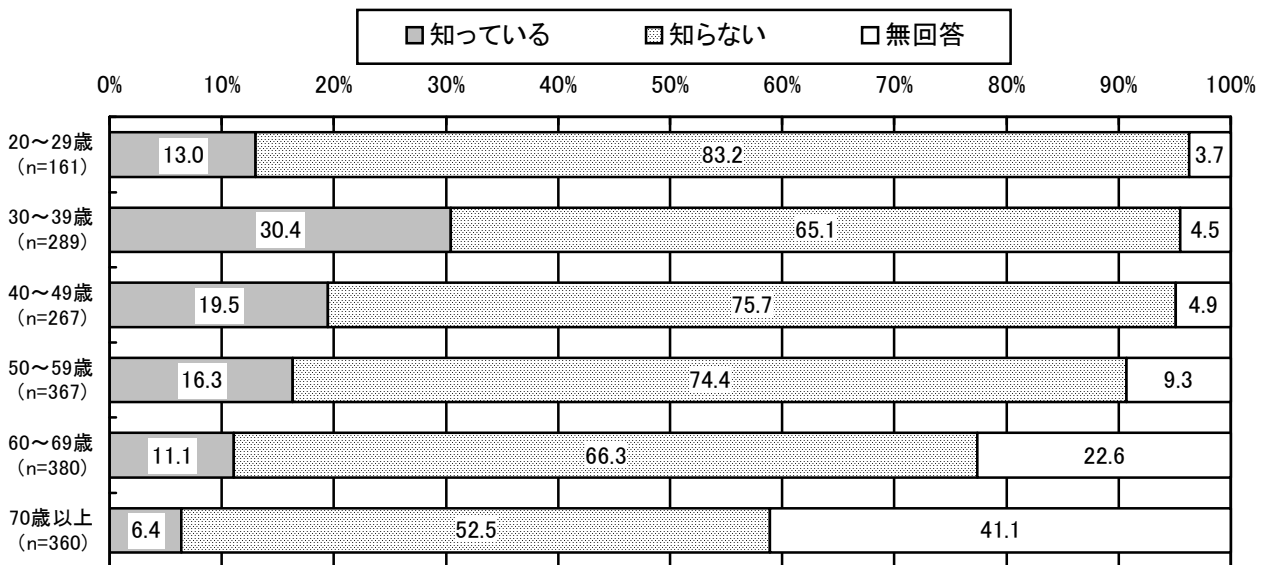
また、他の事業では認知度が最も高い30～39歳が、「児童館」では3番目の認知度となっている。(図7-1-11)

図 7-1-12 (年齢別 保育所や幼稚園の園庭開放等の認知度)



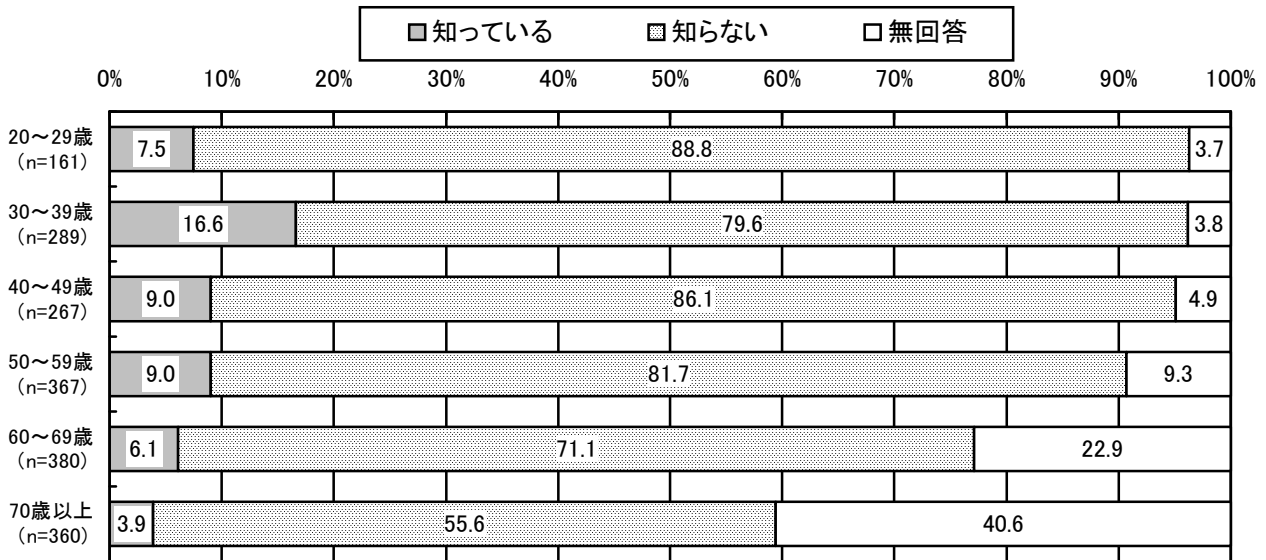
「保育所や幼稚園の園庭開放等」では、30～39歳が50.5%と最も高くなっており、次いで40～49歳(40.1%)、20～29歳(26.1%)の順となっている。(図7-1-12)

図 7-1-13 (年齢別 子育て短期支援事業の認知度)



「子育て短期支援事業」では、30～39歳が30.4%と最も高くなっており、次いで40～49歳(19.5%)、50～59歳(16.3%)の順となっている。(図7-1-13)

図 7-1-14 (年齢別 子育て支援アドバイザー運営事業の認知度)

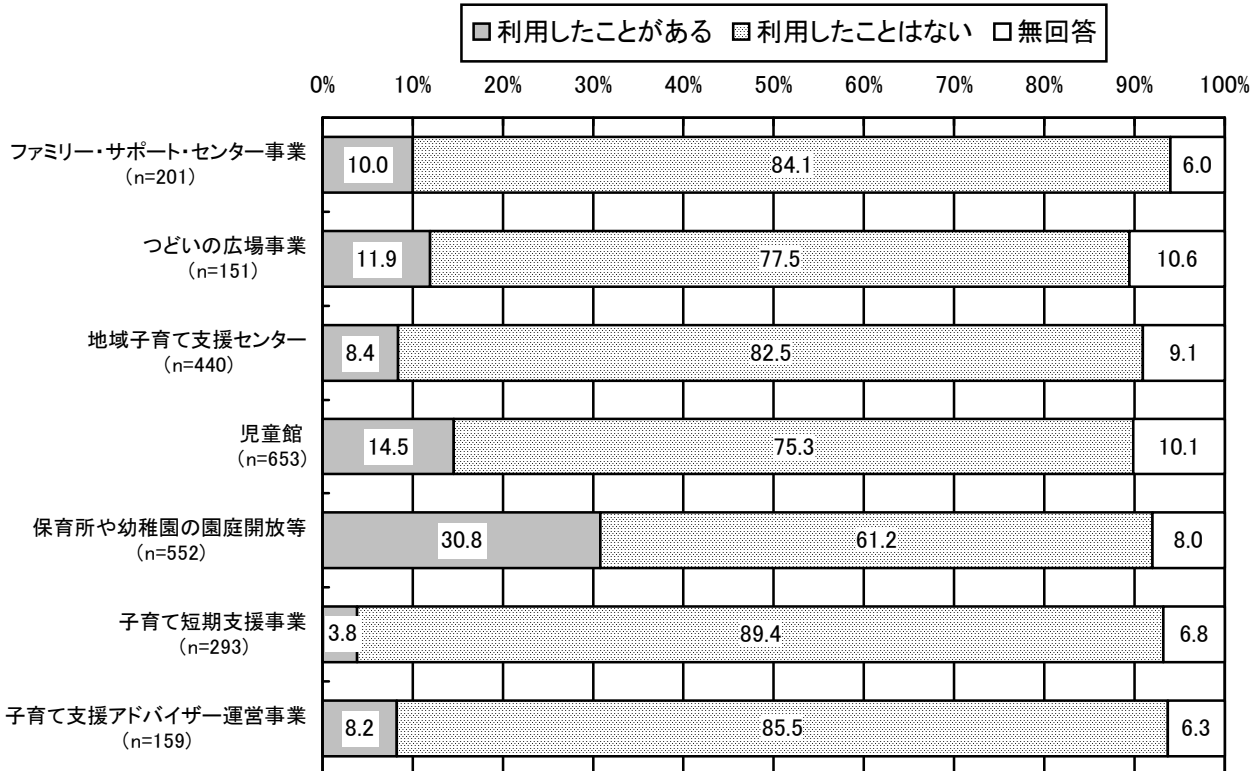


「子育て支援アドバイザー運営事業」では、30～39歳が16.6%と最も高くなっており、次いで40～49歳、50～59歳(9.0%)の順となっている。(図7-1-14)

7-2 子育て支援事業の利用度

問18 奈良市の子育て支援事業についてお尋ねします。全ての項目について、あなたが、②利用したことがある事業、をお選びください。

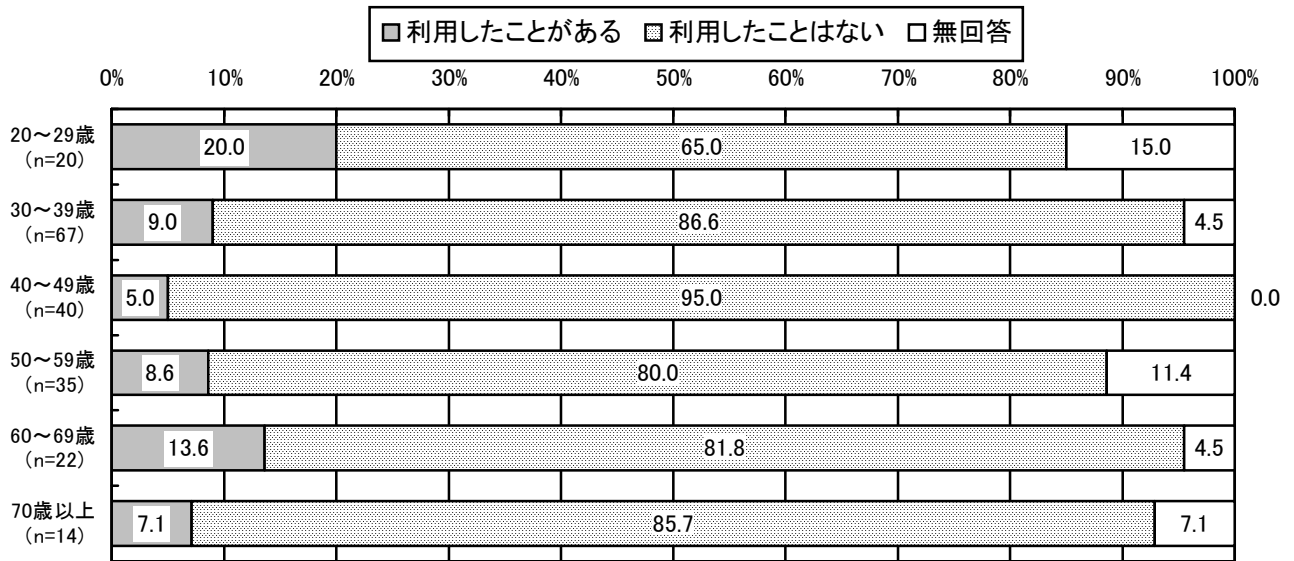
図 7-2 (子育て支援事業の利用度)【各事業を知っている人のみ】



奈良市の子育て支援事業の中で、最も利用度(各事業を知っている人のみ)が高い事業は「保育所や幼稚園の園庭開放等」で30.8%であり、次いで「児童館(14.5%)」「つどいの広場事業(11.9%)」の順となっている。また、最も利用度が低い事業は「子育て短期支援事業(3.8%)」となっている。(図7-2)

●年齢別利用度

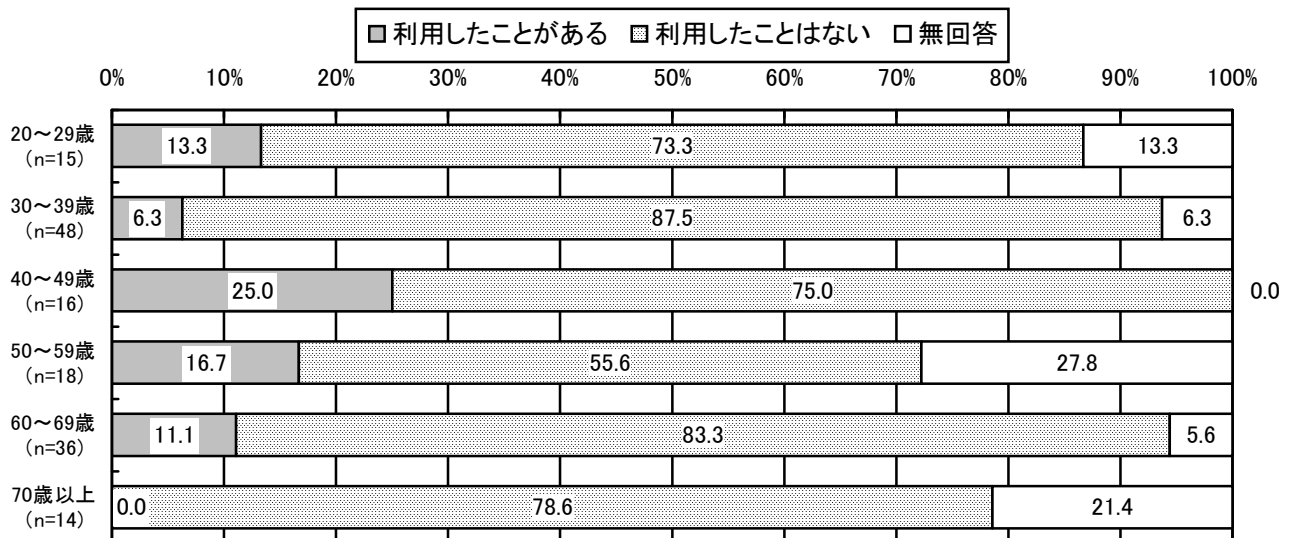
図 7-2-1 (年齢別 ファミリー・サポート・センター事業の利用度)【各事業を知っている人のみ】



また、各事業を年齢別にみると、「ファミリー・サポート・センター事業」では、20～29歳が20.0%と最も高い利用度であり、次いで60～69歳(13.6%)、30～39歳(9.0%)の順となっている。

また、「ファミリー・サポート・センター事業」は、20～29歳では各事業の中で最も利用度が高い事業となっている。(図 7-2-1)

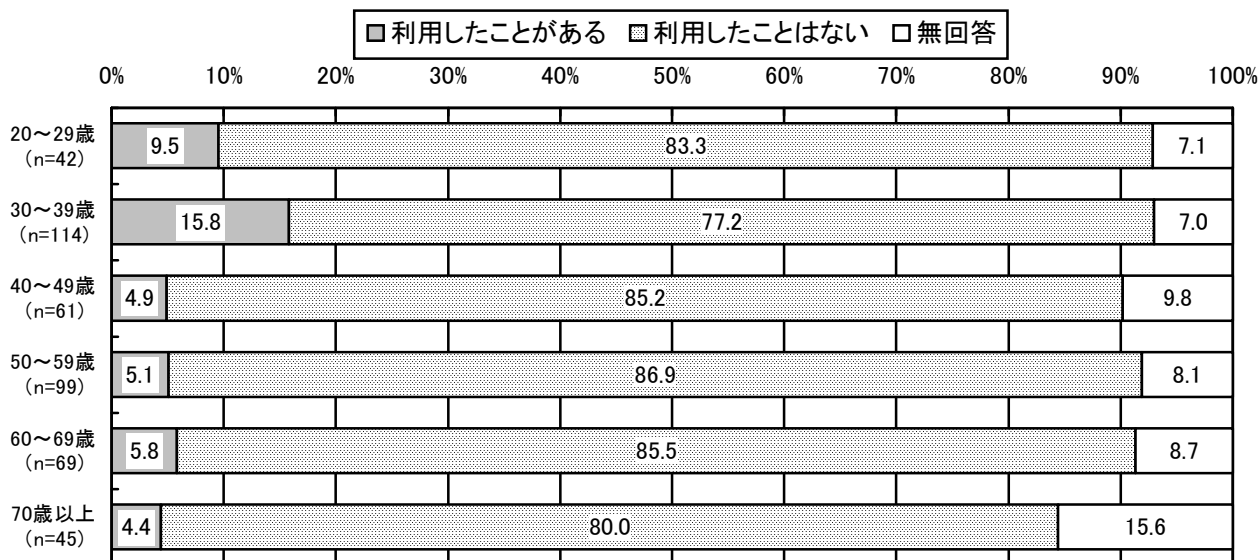
図 7-2-2 (年齢別 つどいの広場事業の利用度)【各事業を知っている人のみ】



「つどいの広場事業」では、40～49歳が25.0%と最も高くなっており、次いで50～59歳(16.7%)、20～29歳(13.3%)の順となっている。

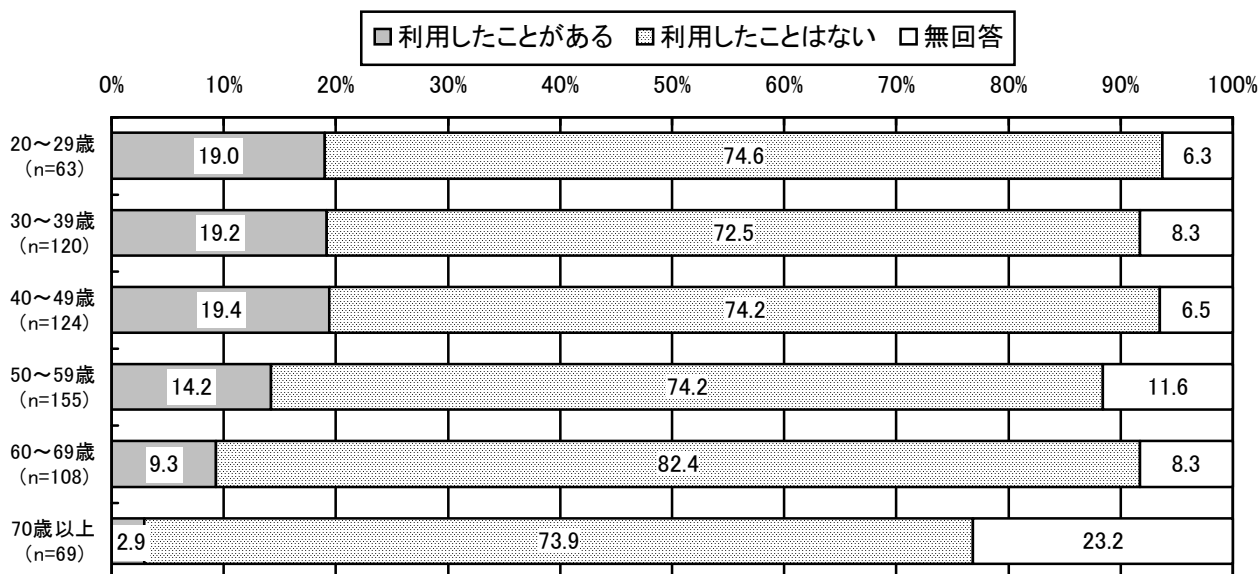
また、30～39歳では、他の事業では1～3位の利用度であるが、「つどいの広場事業」のみ5位と低い利用度となっている。(図 7-2-2)

図 7-2-3 (年齢別 地域子育て支援センターの利用度)【各事業を知っている人のみ】



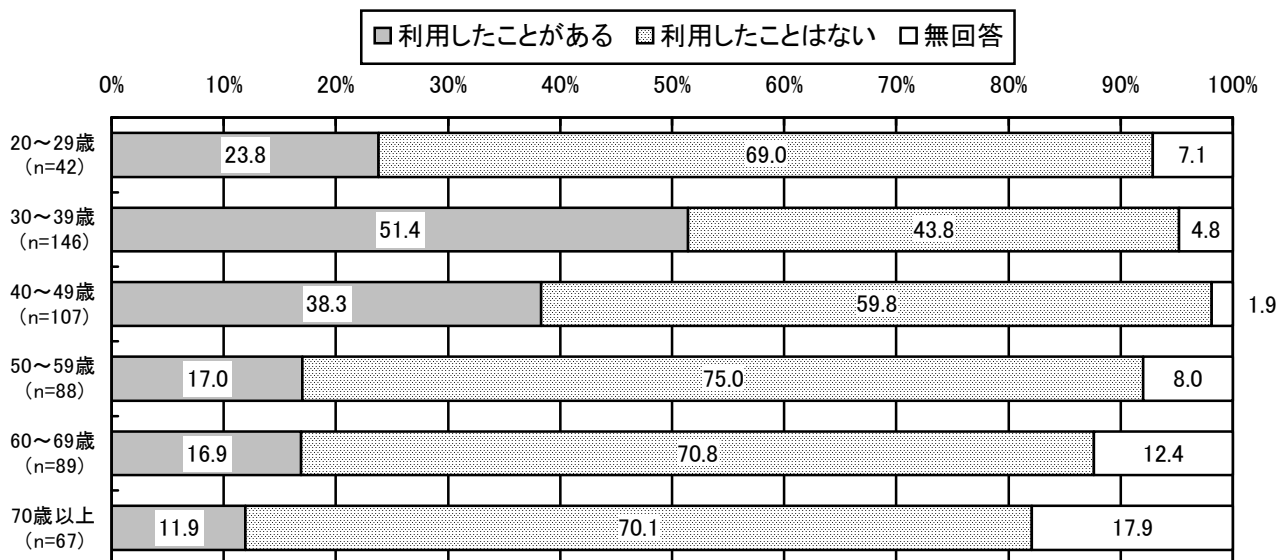
「地域子育て支援センター」では、30～39歳が15.8%と最も高くなっており、次いで20～29歳(9.5%)、60～69歳(5.8%)の順となっている。(図 7-2-3)

図 7-2-4 (年齢別 児童館の利用度)【各事業を知っている人のみ】



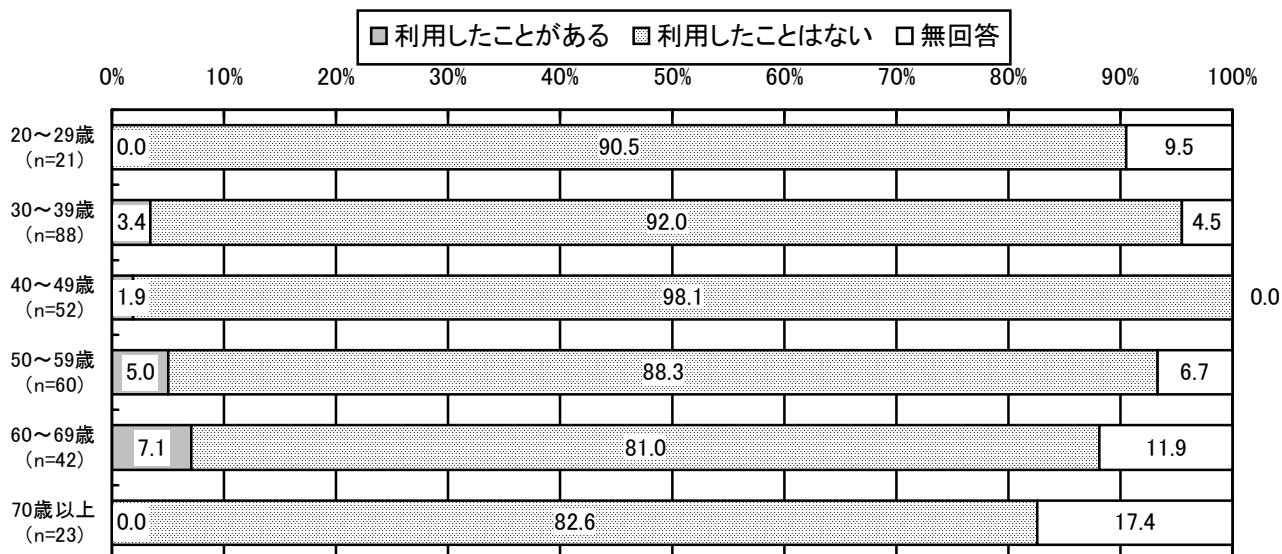
「児童館」では、40～49歳が19.4%と最も高くなっており、次いで30～39歳(19.2%)、20～29歳(19.0%)の順となっている。(図 7-2-4)

図 7-2-5 (年齢別 保育所や幼稚園の園庭開放等の利用度)【各事業を知っている人のみ】



「保育所や幼稚園の園庭開放等」では、30～39歳が51.4%と過半数を超えており、次いで40～49歳(38.3%)、20～29歳(23.8%)の順となっている。(図7-2-5)

図 7-2-6 (年齢別 子育て短期支援事業の利用度)【各事業を知っている人のみ】



「子育て短期支援事業」では、60～69歳が7.1%と最も高くなっており、次いで50～59歳(5.0%)、30～39歳(3.4%)の順となっており、比較的年齢が高い層の利用度が高くなっている。(図7-2-6)

図 7-2-7 (年齢別 子育て支援アドバイザー運営事業の利用度)【各事業を知っている人のみ】

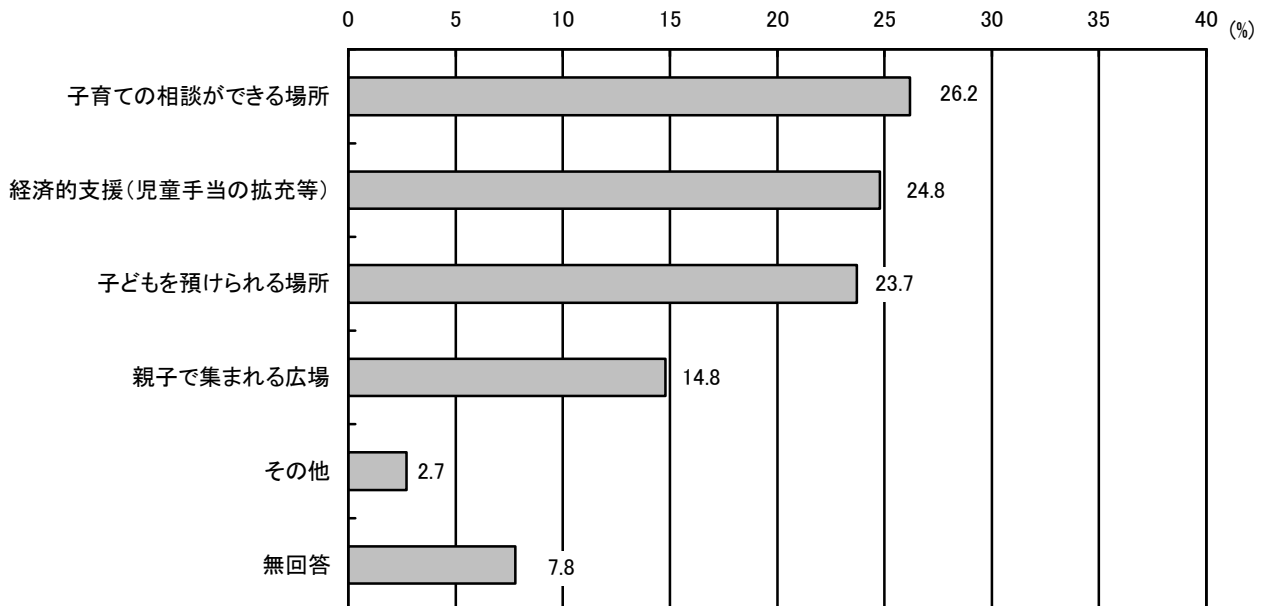


「子育て支援アドバイザー運営事業」では、60～69歳が13.0%と最も高くなっており、次いで50～59歳(12.1%)、30～39歳(8.3%)の順となっており、比較的年齢が高い層の利用度が高くなっている。(図 7-2-7)

7-3 子育てをするうえで一番必要と思われる施策について

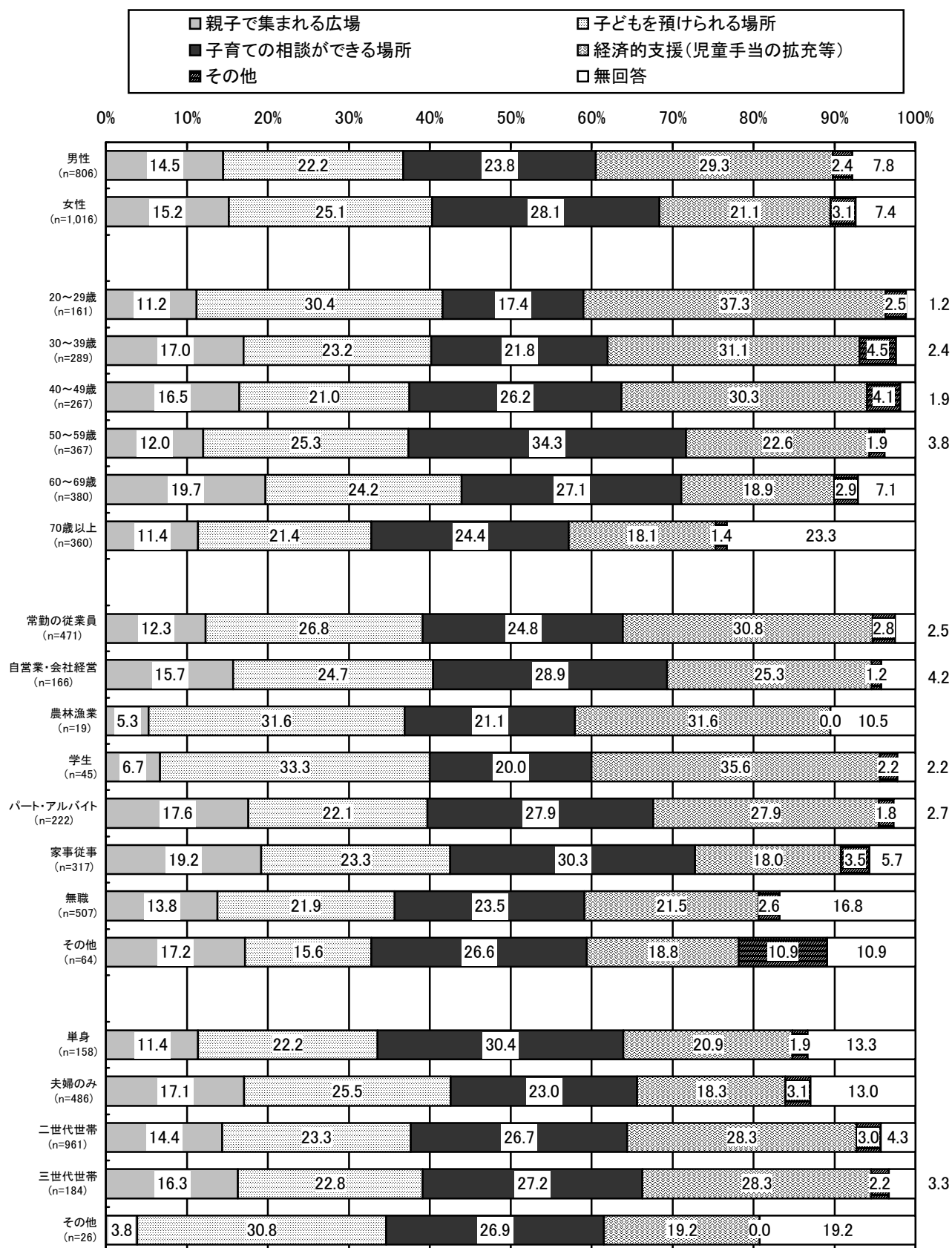
問19 子育てをするうえであなたが一番必要と思われる施策は次の項目のどれですか。(〇は1つ)

図 7-3 (子育てをするうえで一番必要と思われる施策について)【n=1,863】



子育てをするうえで、一番必要と思われる施策は、「子育ての相談ができる場所」が26.2%で最も多く、次いで「経済的支援(児童手当の拡充等) (24.8%)」、「子どもを預けられる場所(23.7%)」、「親子で集まれる広場 (14.8%)」の順となっている。(図 7-3)

図 7-3-1 (性・年齢・職業・家族構成別 子育てをするうえで一番必要と思われる施策について)



性別でみると、男性では「経済的支援（児童手当の拡充等）（29.3%）」が最も多く、女性は「子育ての相談ができる場所（28.1%）」が最も多くなっている。

年齢別でみると、20～29歳（37.3%）・30～39歳（31.1%）・40～49歳（30.3%）の若い世代では「経済的支援（児童手当の拡充等）」が最も多く、50歳～59歳（34.3%）・60～69歳（27.1%）・70歳以上（24.4%）では、「子育ての相談ができる場所」が最も多くなっている。

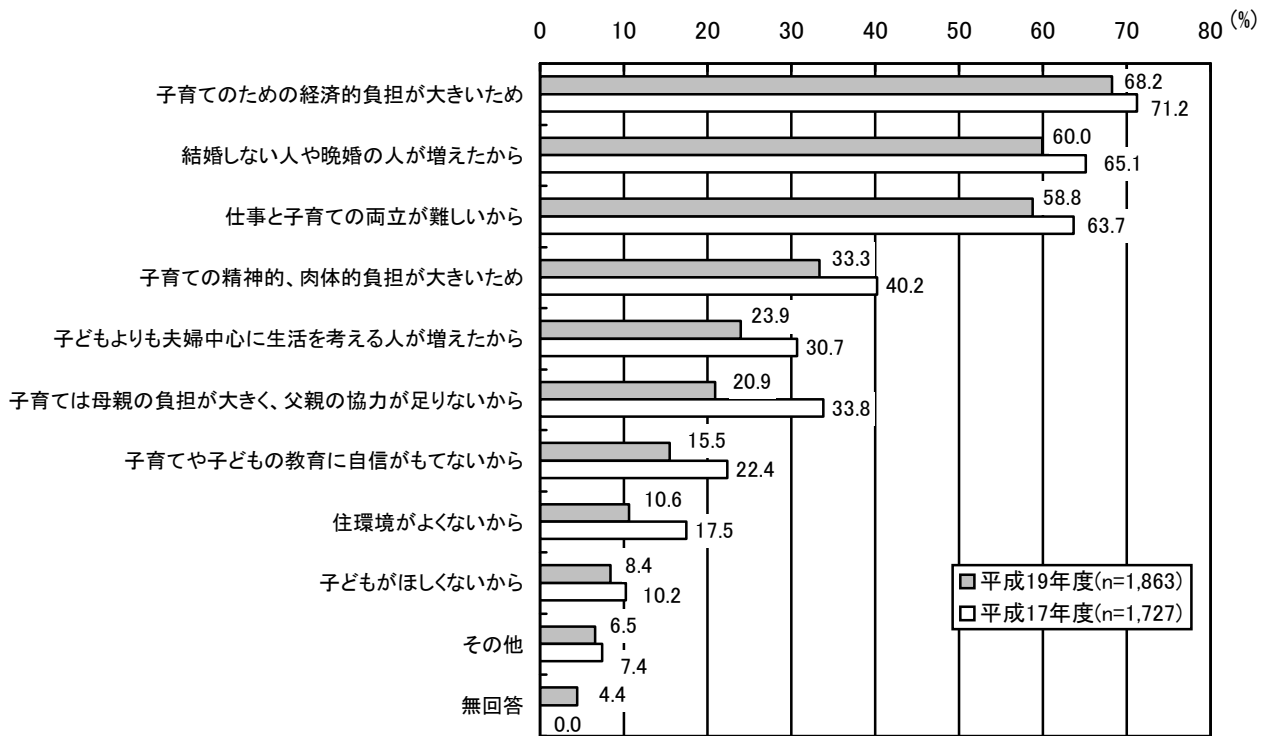
職業別にみると、常勤の従業員（30.8%）・学生（35.6%）では「経済的支援（児童手当の拡充等）」が最も多く、自営業・会社経営（28.9%）・家事従事（30.3%）・無職（23.5%）・その他（26.6%）では「子育ての相談ができる場所」が、農林漁業（31.6%）は、「子どもを預けられる場所」「経済的支援（児童手当の拡充等）」が同率で、パート・アルバイト（27.9%）では、「子育ての相談ができる場所」「経済的支援（児童手当の拡充等）」が同率で最も多くなっている。

家族構成別にみると、単身世帯では「子育ての相談ができる場所（30.4%）」が最も多く、二世帯世帯（28.3%）・三世帯世帯（28.3%）では「経済的支援（児童手当の拡充等）」が、夫婦のみ（25.5%）・その他世帯（兄弟で住んでいる、四世代世帯等）（30.8%）では「子どもを預けられる場所」が最も多くなっている。（図 7-3-1）

7-4 少子化の原因について

問20 最近、出生率が低下し、少子化が進んでいますが、どのようなことが原因だと思われますか。
 （あてはまるものすべてに○）

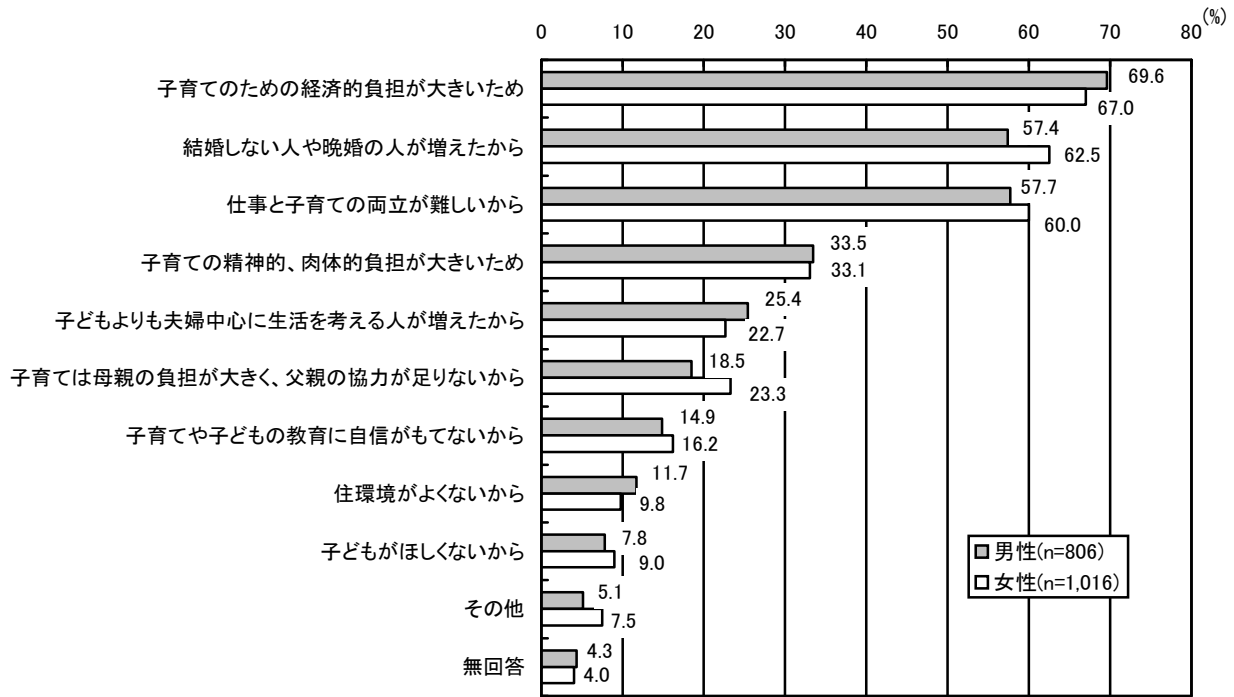
図 7-4（少子化の原因について 複数回答）



少子化が進んでいる原因として、「子育てのための経済的負担が大きいため」が 68.2%で最も多く、次いで、「結婚しない人や晩婚の人が増えたから（60.0%）」、「仕事と子育ての両立が難しいから（58.8%）」の順となっている。

平成 17 年度の「奈良市民意識調査」と比較すると、順位は大きく変わっていないが、複数回答の項目選択率が低いため、全ての項目が平成 17 年度調査と比べると減少している。特に減少が大きい項目は「子育ては母親の負担が大きく、父親の協力が足りないから」で 12.9 ポイント減少して順位を 1 つ下げている。（図 7-4）

図 7-4-1 (性別 少子化の原因について 複数回答)



性別でみると、「子育てのための経済的負担が大きい」は、男女とも最も多くなっているが、男性は2位が「仕事と子育ての両立が難しいから (57.7%)」、3位が「結婚しない人や晩婚の人が増えたから (57.4%)」となっているのに対し、女性は2位が「結婚しない人や晩婚の人が増えたから (62.5%)」、3位が「仕事と子育ての両立が難しいから (60.0%)」となっている (図 7-4-1)

表 7-4-2 (年齢別 少子化の原因について 複数回答)【単位：%】

	20~29歳 (n=161)	30~39歳 (n=289)	40~49歳 (n=267)	50~59歳 (n=367)	60~69歳 (n=380)	70歳以上 (n=360)
1位	子育てのための経済的負担が大きい	子育てのための経済的負担が大きい	子育てのための経済的負担が大きい	子育てのための経済的負担が大きい	結婚しない人や晩婚の人が増えた	結婚しない人や晩婚の人が増えた
	82.0	76.1	74.5	67.6	67.4	56.4
2位	仕事と子育ての両立が難しい	仕事と子育ての両立が難しい	仕事と子育ての両立が難しい	仕事と子育ての両立が難しい	子育てのための経済的負担が大きい	子育てのための経済的負担が大きい
	63.4	58.8	59.9	61.9	64.5	55.3
3位	結婚しない人や晩婚の人が増えた	結婚しない人や晩婚の人が増えた	結婚しない人や晩婚の人が増えた	結婚しない人や晩婚の人が増えた	仕事と子育ての両立が難しい	仕事と子育ての両立が難しい
	56.5	58.5	57.3	61.9	58.9	53.6
4位	子育ての精神的、肉体的負担が大きい	子育ての精神的、肉体的負担が大きい	子育ての精神的、肉体的負担が大きい	子育ての精神的、肉体的負担が大きい	子育ての精神的、肉体的負担が大きい	子育ての精神的、肉体的負担が大きい
	32.9	39.4	34.8	35.7	29.7	28.9
5位	子育ては母親の負担が大きく、父親の協力が足りない	子どもよりも夫婦中心に生活を考える人が増えた	子どもよりも夫婦中心に生活を考える人が増えた	子どもよりも夫婦中心に生活を考える人が増えた	子どもよりも夫婦中心に生活を考える人が増えた	子どもよりも夫婦中心に生活を考える人が増えた
	26.7	23.9	24.3	25.9	22.6	23.6

年齢別にみると、20~29歳 (82.0%)・30~39歳 (76.1%)・40~49歳 (74.5%)・50~59歳 (67.6%) では、「子育てのための経済的負担が大きい」が最も多くなっており、60~69歳 (67.4%)・70歳以上 (56.4%) では、「結婚しない人や晩婚の人が増えた」が最も多くなっている。

2位では20~29歳 (63.4%)・30~39歳 (58.8%)・40~49歳 (59.9%)・50~59歳 (61.9%) は、「仕事と子育ての両立が難しい」、60~69歳 (64.5%)・70歳以上 (55.3%) は、「子育てのための経済的負担が大きい」となっている。

また、20~29歳では「子育ては母親の負担が大きく、父親の協力が足りない」、30歳以上では「子どもよりも夫婦中心に生活を考える人が増えた」が5位以内に入ってきている。(表 7-4-2)